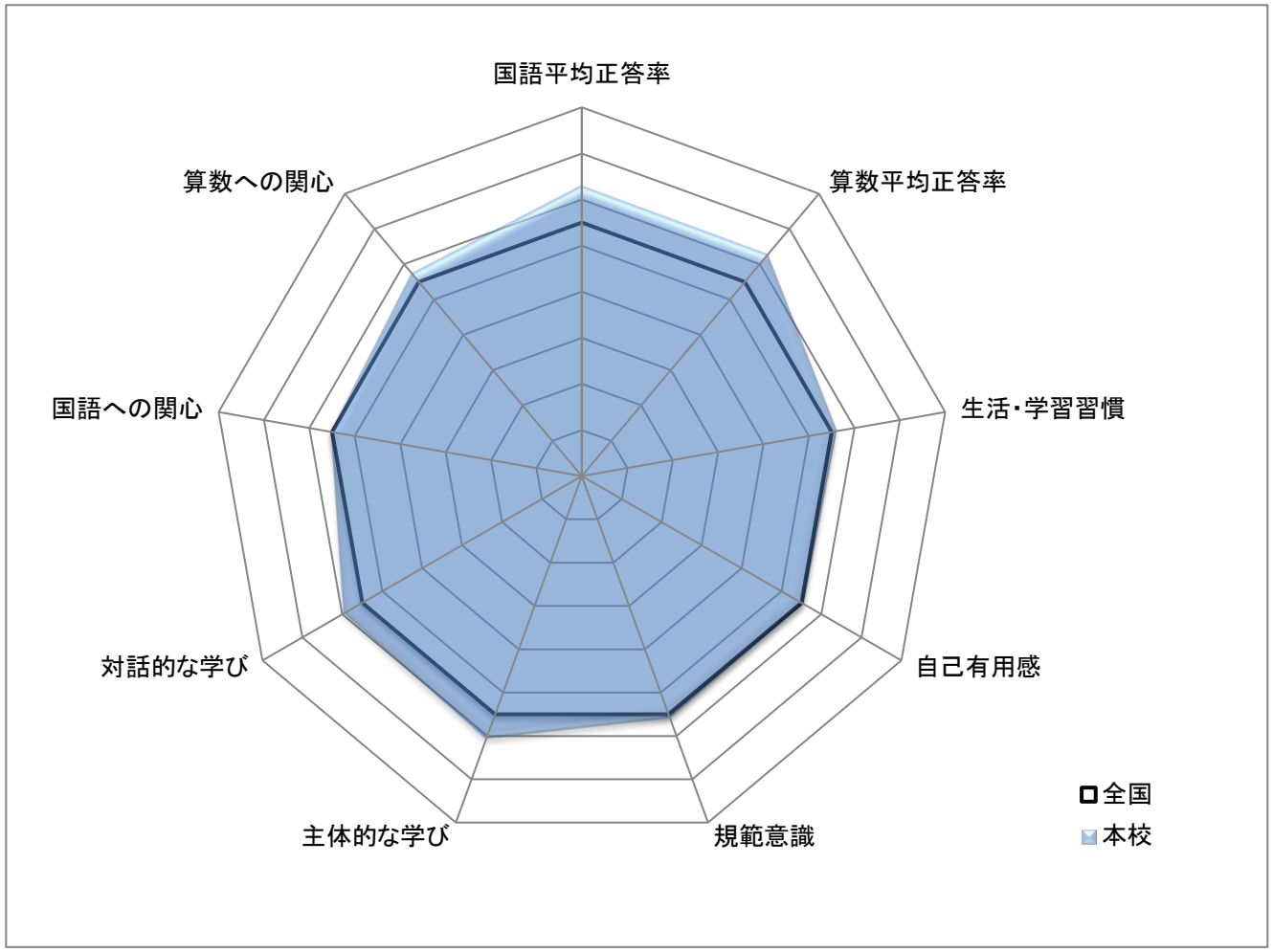
令和４年度全国学力・学習状況調査結果における課題分析表（小学校）

江戸川区立船堀小学校

●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《チャートの特徴》

○このチャートは、「教科の学力」（国語、算数の平均正答率）と、「児童の学習や生活に関する関心」（児童質問紙調査）について、全国を母集団として本校の調査結果を表したものである。太線は、全国平均を表している。青色部分が本校の調査結果である。
○本校の調査結果を見ると、「教科の学力」と「児童の学習や生活に関する関心」ともに、概ね全国平均またはそれを上回っており、全体的にチャートのバランスがとれていることが分かる。

《現状把握》

○国語・算数ともに、全国平均正答率を約１０％上回っている。東京都の平均正答率と比べても、約６～７％上回っている。
○国語では「読むこと」の領域において成果が見られ、全国を約１５％上回る結果となった。
○算数では「変化と関係」「データの活用」の領域ともに、全国を約１１％上回る結果となった。
○国語、算数への関心は、ともにほぼ全国平均と同じであった。
○「主体的な学び」は全国平均を１とした場合の本校が１．１１であり、全国平均を上回っている結果となった。

《授業改善のポイント》

○国語では、文章全体の構成を捉え、大体の内容を把握した上で詳細な読み取りをすばやく収集する力を伸ばす。
○「書くこと」の領域では、誰に・何のために伝えるのかなど、話の中心を意識し、日常的に自分の考えや気持ちを文章に表す機会を設けるようにする。また、他者との交流を通して、伝え合う喜びを味わわせ、自分の考えを積極的に表現できるようにする。
○算数では、自力解決だけでなく他者の考えを説明したり、考え方の図から式を導き出したりする活動を通して、思考を広げられるようにする。
○プログラミングに慣れさせるとともに、操作手順や根拠を言葉で説明する活動を通して、論理的に考える力や表現力を伸ばす。

《家庭・地域への働きかけ》

○「教科の学力」が全国平均よりも高いことは、家庭学習が習慣化され、学校教育に対する保護者の理解が高いことが影響していると考える。引き続き保護者の協力を得られるよう促していく。
○保護者会や学校だより、学年だより、ホームページ等を通して、よりよい生活習慣や規範意識、自己有用感が高まるよう協力を求めていく。